

一 次の文章は、歌人の俵万智さんと言語学者の川原繁人さんとの対談です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

川原 最近、普段使いの会話やaありふれた言葉に対しての関心が高まっているように感じています。それは多くの人が言語を話せること、言語を通じてコミュニケーションを取ることが当たりまえではないと気づき始めているからではないでしょうか。ことばによるすれ違いがb多発しているからこそ、言語とは何かを問い直す人が増えているのだと感じます。

俵 それはインターネットの影響も大きいんですね。ネット上では、言葉だけのやりとりが基本になります。言葉だけを使ってコミュニケーションするというのは、本来的にはすごく技術が必要とされることです。c会ったこともない人と言葉だけでコミュニケーションするのは想像している以上に難しいし、高度な技術が必要です。それなのに、みんな無免許でd好き放題に乗り回している印象があります。(A)言葉の暴力や行き違い、事故が多発する。

e小さいときから顔を見て言葉を投げ合う関係だったら、多少言葉の使い方がうまくなくても「こいつはこういう考えで、こういう文脈で話しているんだ」とわかる。(B)、会ったこともない人にf唐突な言葉を投げつけられたら、それは怒るし傷つきますよ。本当は①こんな時代だからこそ言葉を使う技術を磨かないといけないのに、言葉を使うことがg安易に捉えられてしまっている。

川原 俵さんはこの状況を「言葉のインフレ」が起きている、と表現していました。表情やジェスチャーが使えないだけでなく、ネット上では書き言葉が中心になってしまいうことにも注意が必要なのかもしれません。

俵 インターネットやSNSの存在のおかげで、言葉を簡単に不特定多数の世界へと発信できてしまう。これも言葉のインフレの一種だと思います。

以前は不特定多数の人に読まれる文章は、新聞記者が書く記事や小説家の作品など限定されていた。それが今では、誰もが自分の書いた文章が顔が見えない相手に発信できてしまう。そういう言葉が巷に溢れているのもインフレと言えます。ちゃんと精査されないままの言葉が氾濫しているのは怖い状況です。本当は今、こんな時代だからこそ私たちは言葉とは何かを立ち止まって考えて、言葉を使う技術を磨かないといけない。

川原 それだけことばを介したトラブルが多いからこそ、「日本語とは何か」「そもそも言語とは何か」という問題に多くの人々が関心を寄せるのでしょうか。

俵 だからといって、昔が良かったというのも短絡的な考えです。せつかく便利なものがあるのだから、うまく使って楽しめればと思います。昔は昔で、言葉にまつわる衝突やトラブルはたくさん起きていたはずですから。結局、②言葉は関係性と使い方なんです。

川原 言語学者は、人間の言語能力に絶対的な信頼をもっています。それは言語を研究すると、言語がいかに緻密な構造をもっているのかと驚くことの連続だからです。私個人としても、人間の言語能力に対する信頼は今でも揺らいでいません。ですが、何もしないで言語能力が身につくかといえ、そうでもないと感じるようになりました。③種があっても、水や太陽の光や養分がなければ花は咲きません。ですから親としても言語学者としても、短歌のような日本語の養分を子どもたちに提供していきたい。

俵 実は短歌をやりたいという若い人がどんどん増えています。自分の思いを言葉で的確に、端的に発信する。また逆に、相手の伝えたいことを、まちがえずに受け止める。双方にとつていいトレーニングになります。(中略)

今は言葉がネガティブな方向で語られることが多い。言葉が人を傷つける側面ばかり強調されるし、現にそういう場面は多いと感じます。でも、使い方によっては言葉ほど素敵なものはない。お金もかからないし。それで人と繋がれたり、心を動かせるんだから。

親の立場からしても、言葉こそが子どもに贈ってあげられる一番のプレゼントだと思うんです。言葉が使えらというのは生きる力に直結します。モノをあげても、それはいつかなくなってしまう。でも言葉はなくならない。生きる力に直結するのが言葉だと思います。

川原 同感です。(X) (Y)、とも感じます。「英語を学ばせて国際人を育てましょう」というメディアの煽りもあるし、お受験のために小さい頃から英語を勉強させようという教育産業の煽りもある。日本語を喋れるのが当たり前だと捉えられ過ぎているのかもしれない。

俵 日本で生まれ育ったから日本語を喋れるのは当たり前で、そんなことに時間を使う必要はないと言われがちだけど、それは違います。だって算数でも何でも、頭の中では日本語で思考するんだから。物事を考える土台でもあり、根っこである日本語がきちんとしていないと危ないですよ。自分をありのまま表現できる言葉を使って、他人と関係を築いていけるって大事です。

私は基本的に、生きるとは最高だと思っている人間です。その喜びを、言葉を使って表現したい。子育てをしているときだって、子どもは想像以上に(Y)言葉を投げかけてくれます。たとえば、急に寒くなった季節に子どもが「お母さん今日はボールが冷たいね」という。秋という言葉が知らなくても、敏感に四季の移ろいを感じている。その感性に触れた瞬間はやはり感動します。

川原 ことばがすべての学びの根本であるというのは、おっしゃる通りだと思います。算数も理科も社会もことばがなければ理解できません。ことばというのは毎日当たり前のように使っているものだから、意識する人の方が少数派かもしれません。でも、人間を根本的なところで他の動物と区別する性質は、ことばを持つかどうかだと思います。そして、そのことばを基盤にして、人は他者との関係をつむぐ。現代社会は変に「個」を重視することばかりに気がいってしまって、他者との関係がないがしろにされているのではないか、とも思います。でも、人間は「(Z)動物」です。他者との関係なしに生きていくことはできない。人間の幸せは、他者との関わりあってこそです。そんな関係の基盤になるものが、ことばなのですから、もつとことばが大事にされる世の中になってほしいです。

1 傍線部 a 「ありふれた」・ b 「多発」・ c 「会ったこともない人」・ d 「好き放題」・ e 「小さいときから顔を見て言葉を投げ合う関係」・ f 「唐突」・ g 「安易」を、同じような意味で言い換えるならどの言葉が適切ですか。それぞれ記号で選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア やぶから棒 イ 竹馬の友 ウ 枚挙にいとまがない エ その場しのぎ オ 赤の他人
カ 月並み キ わがもの顔 ク うわの空

2 空欄 A・B にあてはまる言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア そして イ だから ウ たとえば エ でも オ なぜなら

3 傍線部①「こんな時代」とありますが、ここではどういう時代のことを言っていますか。次の中からあてはまるものを選び、記号で答えなさい。

ア よくわからない多数の相手とすぐに親しくなってしまう時代

イ 一部の特権的な人たちによって情報が独占されている時代。

ウ 他人を傷つけることがあたりまえになったモラルの低い時代。

エ 不特定多数の人に簡単に言葉が発信されてしまう時代

4 傍線部②「言葉は関係性と使い方なんです」とありますが、どのようなことが言いたいのですか。次の中からあてはまるものを選び、記号で答えなさい。

ア インターネットのなかった時代の身近な人間関係では言葉のトラブルもほとんどなかったということ。

イ 以心伝心で通じ合えるような親しい人間関係なら、すべてがうまくいくということ。

ウ 相手を傷つけないようにたがいに距離をとりあう人間関係であれば、トラブルはない。

エ いかなる時代でも言葉のトラブルはあるので、信頼できる関係を作り、言葉の技術を学ぶべきである。

5 傍線部③「種があっても、水や太陽の光や養分がなければ花は咲きません」とありますが、ここでたとえられている、1「養分」・2「花」にあたるものはそれぞれ何ですか。文中から1は二字で、2は四字で、それぞれ抜き出して答えなさい。

6 空欄 X に当てはまる語句を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア だから、実際の子育ての現場でそう思っている親は多数派なんじゃないか

イ ただ、実際の子育ての現場でそう思っている親は少数派なんじゃないか

ウ もっとも、実際の子育ての現場でそう思っている親は批判されるんじゃないか

エ でも、実際の子育ての現場でそう思っている親は時代おくれなんじゃないか

7 空欄 Y に当てはまる語句を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア すがすがしい イ いまいます ウ ほほえましい エ みずみずしい

8 空欄 Z に当てはまる語句を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 個性的 イ 画一的 ウ 社会的 エ 理的

9 二人の対談を通して、共通する考えとしてあてはまるものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア インターネットによって簡単に情報発信できる時代になって、言葉についての関心がなくなってきた。

イ 言葉の技術がおろそかなまま不特定多数の世界でコミュニケーションするのは危険である。

ウ 現代の人間関係のさまざまなトラブルは積極的に言葉を使わないことが主な原因である。

エ 日本人が日本語の能力を持っているのは当たり前なのに、それを大切に行っている人が少ない。

オ 言葉は学びの土台となるものであり、他人と良い関係を築いていくうえで重要である。

次の短歌を読んで、考えたことを書きなさい。

「オレが今マリオ(まうりお)なんだよ」島に来て子はゲーム機(ぶ)に触れなくなりぬ(ぬ)

俵万智

注1 マリオ：人気ゲームシリーズの主人公で、さまざまなぼうけんを乗りこえることによって成長していく。

注2 触れなくなりぬ：触れなくなった

短歌は、物語文とちがって、場面の様子がくわしく説明されていません。短歌の中の言葉を手がかりにして、場面の様子を自分なりに想像をふくらませ、三つの段落に分けて作文を書きなさい。解答は原稿用紙の使い方に気をつけ、所定の原稿用紙に三六〇字以上四〇〇字以内にまとめなさい。

また、次のワークシートにどんな場面であるか、どんな気持ちでいるかなど、考えたことをメモしましょう。ただし、ワークシートは採点の対象ではありません。

*作文は「である」調で書くこと。

考える言葉【「オレが今マリオなんだよ」】→場面の様子・気持ちを想像して書きましょう

考える言葉【島に来て子はゲーム機に触れなくなりぬ】→場面の様子・気持ちを想像して書きましょう

感じたこと・考えたこと →自分の体験などをあわせて考えてみましょう